

# 夏休みの過ごし方



獨協大学の学生が夏休みを有意義に過ごすきっかけとなるように、夏休みの過ごし方について先生方のご経験やご意見を伺いました！先生方の声を参考に、何かに挑戦したり、自分の目標を見出すきっかけにしてください！！



田中 善英教授  
(Tanaka Yoshihide)  
■外国語学部フランス語学科  
■専門分野：フランス語学



岩田 安晴教授  
(Iwata Yasuharu)  
■経済学部経済学科  
■専門分野：日本経済論、マクロ経済学



司会進行  
岡垣 知子教授(副学長)  
(Okagaki Tomoko)  
■法学部国際関係法学科  
■専門分野：国際政治学、International Politics



堀川 宏専任講師  
(Horikawa Hiroshi)  
■国際教養学部言語文化学科  
■専門分野：西洋古典学



常石 史子准教授  
(Tsuneshi Fumiko)  
■外国語学部ドイツ語学科  
■専門分野：表象文化論、ドイツ語圏のメディア文化

Q 先生方は学生時代どのような夏休みを過ごされていましたか？

常石先生 激しい夏を過ごした経験として、ひと夏でフランス語の基礎文法を一からやった経験があります。

田中先生 アルバイトをたくさんし、貯めたお金で一人旅に行きました。一人旅は自分と向き合う時間ができるのでとてもいいですよ。貯めたお金で一人暮らしを始めたり、アルバイトでのパソコン作業がその後の人生や今につながっていてとてもいい経験でした。

堀川先生 ポート部に入っていて部活に打ち込みました。身体を大きくするスポーツなのでたくさん食べ、鍛えるために1・2年生の時はほとんど部活ばかりでした。ただ3年生以降は、大学院への進学を考えていたので毎日図書館に行って本を読んだり文章を書いたりしていました。

岩田先生 青春18きっぷを使って東京から実家のある大阪まで帰省したりしていました。まとまった時間がとれる学生だったからできたことです。

Q ご自分の経験から、学生にどんなアドバイスをされますか？

岩田先生 学生時代だからこそその夏休みの過ごし方があると思います。まとまった時間があるときにしかできないことをやってほしいです。本学の学生なら海外に目を向けて、なるべく多くのものを見てくれれば良いと思います。

田中先生 時間があるからこそ、あえて、鈍行電車に乗ってじっくり旅行して日本の風景を楽しんでもいいし、海外の田舎などに行き、その国の人たちの姿を見てきてほしいと思います。その旅行は、不便な点もありますがいろいろな経験をすることで自分の成長につながると思います。

常石先生 先ほどひと夏で文法をやったとお話ししましたが、その後の1カ月はパリに行くことを決めていました。楽しいことを後に置いてもいいかもしれませんが。

堀川先生 部活に一生懸命打ち込むなど、身近な仲間たちと目標に向け、まとまった時間取り組むことができるのは学生時代の今しかないのではないのでしょうか。

岩田先生 勉強については色々なやり方がありますね。私の場合は1日中、図書館にいてゆったりとした気分で勉強していました。そこでの時間はいつも生産的なわけではありませんが、時間を気にせず本を読む、文章を書く、辞書を引くなどは、夏休みであればこそその時間の使い方だと思っています。

Q 本学学生に特化した夏休みの過ごし方はあるでしょうか？

岩田先生 獨協大学の学生にどんなイメージをお持ちかを踏まえてお聞かせください。

岩田先生 本学学生に特化した夏休みの過ごし方はないと思います。「語学の獨協」というだけあってグローバルな雰囲気が強みだと思います。言葉はコミュニケーションの根幹です。言葉を使って経済や専門の話をし、世界の人とコミュニケーション

田中先生 ニケーションがとれることが重要です。獨協大学は語学を学ぶのには、うらやましいほどの環境にあるので是非たくさん勉強して欲しいです。

常石先生 謙虚すぎるころがあり、もっと前に出てほしいかなと思います。時代の変化がこれから早まると思いますが、この変化に対応する力をどうやってつけるか。これは豊富な経験がものを言うと思います。夏休みにしかできないことをぜひ経験して欲しいです。

堀川先生 例え、私は映画を専門にしていますが、ミニシアターに関する発表をした学生がいたのでそのものがそれまでアンテナに引っかかっていなかった人が多い。ミニシアターに限らず、観劇や展覧会、あるいは好きな作家のトークショーなど、ちょっとした好奇心に突き動かされて行ってみるといいことがある。タガを外して、普段やらないようなことを夏の間にやってみると人生の核のようなものを見つけれられるかもしれません。

常石先生 例え、私は映画を専門にしていますが、ミニシアターに関する発表をした学生がいたのでそのものがそれまでアンテナに引っかかっていなかった人が多い。ミニシアターに限らず、観劇や展覧会、あるいは好きな作家のトークショーなど、ちょっとした好奇心に突き動かされて行ってみるといいことがある。タガを外して、普段やらないようなことを夏の間にやってみると人生の核のようなものを見つけれられるかもしれません。

堀川先生 例え、私は映画を専門にしていますが、ミニシアターに関する発表をした学生がいたのでそのものがそれまでアンテナに引っかかっていなかった人が多い。ミニシアターに限らず、観劇や展覧会、あるいは好きな作家のトークショーなど、ちょっとした好奇心に突き動かされて行ってみるといいことがある。タガを外して、普段やらないようなことを夏の間にやってみると人生の核のようなものを見つけれられるかもしれません。

堀川先生 例え、私は映画を専門にしていますが、ミニシアターに関する発表をした学生がいたのでそのものがそれまでアンテナに引っかかっていなかった人が多い。ミニシアターに限らず、観劇や展覧会、あるいは好きな作家のトークショーなど、ちょっとした好奇心に突き動かされて行ってみるといいことがある。タガを外して、普段やらないようなことを夏の間にやってみると人生の核のようなものを見つけれられるかもしれません。

Q 最後に、先生方から、勉強面で秋学期に向けてこんな風に過ごしてほしいという希望や提案などがありますか？

岩田先生 学期中に追われていてできなかったことや復習が大事なので、ノートの見直しをしたり次の学期にむけて予習をやってほしいです。心に余裕がないと勉強を楽しいって思えないので、時間のある時に自分のペースで楽しくやってほしいです。

堀川先生 昔は図書館に行って調べ物をしていました。今は検索すればすぐに出てきます。逆にいうと、求めてないと調べている人と差がつく。難しい時代なので頑張って興味のあるものをたくさん調べて欲しいです。

常石先生 ドイツ語学科はリベラルアーツ、つまり教養教育を大事にしていて、ひとつこれを研究したいというのを見つけた上で論文にすることを一つのゴールとしています。何に興味があり自分に合っているのかを探すにはある程度集中して時間をかけないといけないので、夏休みはそれを探すにはうってつけの時間だと思います。

田中先生 4年間でこれを大学で学んだと言えるものを見つけ、追求して欲しい。例えば語学という観点

田中先生 4年間でこれを大学で学んだと言えるものを見つけ、追求して欲しい。例えば語学という観点

田中先生 4年間でこれを大学で学んだと言えるものを見つけ、追求して欲しい。例えば語学という観点